

高校紛争と政治教育

太田正行（慶應義塾大学）

1 はじめに

18歳選挙権実現に伴い2015年に廃止された1969年「高等学校における政治的教養と政治的活動について」（通知）発出の原因は、当時頻発した「高校紛争」である。

2 高校紛争の実態とその背景

①1969年全国的な学園紛争（大学紛争→高校紛争）

②1969年2学期東京都立高校で「正常な授業が乱された高校」30校/149校

11月上旬には、校舎封鎖4校、休業2校、全校集会・ホームルーム12校

③生徒の要求事項は、教育行政・教育課程、校則や生徒心得など

④高校紛争の背景

(1)内外の政治状況：日米安保、ベトナム戦争、沖縄返還など

(2)大学紛争：東大安田講堂事件、日大闘争、東大・東教大入試中止。

(3)高校の受験体制：「灰スクール」「ティーチングマシン」

(4)都立高校の「学校群制度」

3 高校生の政治意識

①「政治的活動」について：生徒の半数は「政治的活動」を認めていた。

②文部省通知「政治的活動の禁止」

生徒は「政治的活動の自由」を要求、一部高校では「禁止せず」

4 政治的教養と政治教育

①「政治的教養の教育」と「政治教育」

②「政治的問題」への関心

1969年調査：「関心あり」44%、「関心なし」11%、「どちらとも言えない」46%

「関心を持つようになった理由」では「新聞・テレビを見て」54%

「もっと政治に関心を持つべき」65%

→「慎重に判断できるようにするため」54%「正しい教養を身に付けるため」29%

政治的問題を扱う機会として「ホームルーム」52%、「教科の授業」19%

③高校紛争の要因は「政治教育の欠如」

*「触らぬ神にたたりなし」「一部の急進分子と大部分の無関心組とに分かれる」

*公式を鵜呑みにしているから、現実が違っていると直線的に反発する。

*やらされた民主主義、押し付けられた形式に過ぎなかった。

*形式的な民主主義の教育

④政治教育の方法

*現実の政治的事象を積極的に取りあげ、その事象の根底にあるものや基本的事項を指導。

*政治がきれいごとでは済まされないという政治の本質を理解させる。

*多元的価値観を認める訓練や政策を批判する立場の確立が大切。

5 今後の課題